

NEVER and 暗殺教室 Over Eternal

ヨヨシ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

人間の死体を科学技術を駆使して強化・蘇生させた生物兵器もしくはその集団の名前。NEVERは略称で、正式名称はNECRO O VER（ネクロオーバー）。身体能力は生前より高く、銃弾でも致命的なダメージにはならず、瞬時に再生する耐久力と治癒力を持つ。そしてNEVERのリーダー兼仮面ライダーエターナル大道克己はある男に、柗ヶ丘中学に入学して欲しいと提案される、そしてNEVERのメンバーはどうなるやら……

目次

不死身の傭兵	1
E・1 殺せんせーとNEVER	4

不死身の傭兵

ここはどこか日本にある工場の廃墟、そこには5人の人間…いや、死人が住んでいた……彼らはNEVER、それは人間の死体を科学技術を駆使して強化・蘇生させた生物兵器もしくはその集団の名前。NEVERは略称で、正式名称はNECRO OVER（ネクロオーバー）。身体能力は生前より高く、銃弾でも致命的なダメージにはならず、瞬時に再生する耐久力と治癒力を持つ。ただし元が死体の為特殊な酵素を定期的に投与し続けないと肉体を維持できず、新陳代謝もないため肉体の成長には薬品による細胞増殖が必要。更にはこの5人はその実験の為に幼い頃に受けさせられた為体の成長する時期だからより必要だ、このNEVERのメンバーはリーダーで、ナイフがメイン武器で、髪に青いメッシュが掛かった大道克己、鞭を主に武器として使う、性格も口調もオカマの京水、しなやかやり方で戦う女子メンバーの羽原レイカ、無口だが射撃に関しては最強クラスの芦原賢、棒術と肉弾戦を好む堂本剛三の5人だ（因みに5人の年齢17歳ぐらいの年だ）。5人は曇り空の中、廃墟の中で、ガラクタやドラム缶とかに居座っていた。

「んもう！曇りの日なんて嫌になっちゃうわ、アタシの肌が荒れちゃうー！」

相変わらずブレない京水に対して

「あー!!?五月蠅いってーの!!?京水黙ってるって!!?」

「正直あんたら揃って五月蠅いから」

「……」

レイカは呆れて、賢は自分の武器のライフルの手入れをしていた。すると克己が

「…誰だ、ここに来るやつは?」

『?』

克己の一言を聞いた瞬間メンバーはさっきの事が嘘かな様に真剣にな表情になりその場で構えた。そこに来たのは一人で、スーツを着ていた。

「あらやだいい男じゃない！嫌いじゃないわ!!？」

「お前何者だ？」

克己がそう聞いたらスーツの男が答えた

「君が大道克己で間違いないな、防衛省の烏間という者だ。まずは、ここからの話は国家機密だと理解いただきたい」

そう前置きをしながらその人、烏間さんは話し始めた。

「単刀直入に言う、桐ヶ丘中学に入学して欲しい」

克己がそれを聞くと鼻で笑った。

「俺が中学に？ハッ、冗談はほどほどにしろ」

克己は呆れていたが烏間は

「君らが世間を騒がせているテロリストなどを壊滅しているNEVERだと分かっている、漸くどんな奴なのか掴んだからな、」

「それでどうする？俺達を捕まえるのか？」

「いや、細かく言うとお前らの力を借りたい」

「俺達の力を借りる？防衛省も世も末だな」

「兎に角着て欲しいんだ、その中学に”最強の怪物”がいるんだその怪物は普通に教師をしているが来年には地球を破壊してしまう。そこでお前らの力を貸して欲しいんだ」

烏間が言った最強の怪物を聞いたNEVERの皆は反応した、

「その怪物ってのは気になるわね」

「強えんだなそいつは？」

「まあ、私も気になるな」

「…Game start…」

メンバーはそれぞれ口ずさんだ。それを聞いた克己は

「…フツ、化け物だか何だか知らないが、ならその怪物とやらに地獄を見せるだけだ」

「それは来てくれるということだな？」

「ああ、さっさと行くぞ」

「要件を呑み込んでくれてありがとう、明日柵ヶ丘中学の裏にある山に来てくれ」
「わかった」

そして今ここに最強の傭兵再び立ち上がる瞬間だ

e n d

E. 1 殺せんせーとNEVER

ここは桐ヶ丘中学校の裏の山にあるクラス、桐ヶ丘中学E組通称エンドのE組。本来名門進学校であるこの学校で成績の悪化した者や校則違反者が自動的に送られる場所。例えば停学を食らっていた赤羽とか、そこに通う生徒は他クラスのやつらから冷ややかな目を向けられる。このクラスを担当月を破壊した張本人、黄色い触手が生えたタコのような怪物通称殺せんせー。何故この怪物がここで教師をしているのかわからないが、殺せんせーは生徒達に暗殺術を教えていたりと謎だ。今日もHMが始まる。

「それではホームルームを始めます。日直の人は号令を」

「起立、気をつけ…」

クラスの皆は号令に合わせて銃を構え

「礼！」

その礼の号令で普通は頭を下げておはようございます、と挨拶すると誰もが思うだろう。しかしこのクラスは違った、皆一斉に銃を殺せんせーに向かって乱射した

「では出席を確認します」

だが殺せんせーは涼しい顔で避けて行き出席確認していた。そして出席確認が終わり、出席簿が閉じられる。

「皆さんおはようございます」

『おはようございます』

「又ウルフフフ、皆さん今日はこのクラスに来る新しい仲間を紹介します」

クラスの人はそれを聞き少しざわついた、するとそこで後ろの席にいる赤羽が口を開く。

「せんせー、そいつ強いのか？」

その質問に殺せんせーは

「又ウルフフフ、はい、業君の言う通り今日来る転校生はかなり強いです。烏間先生でも勝てない程の実力者です。そしてその人は皆がよ

く知ってますよ」

更にクラスの人はざわついた。あの人類最強と言われるであろう鳥間先生でも勝てないと言われたことと、自分達がよく知ってるという言葉に皆はざわついた

「それではお入りください」

その掛け声を聞きドアから入って来たのは5人。だがその5人が入ってきた瞬間、クラスの全員が一種の恐怖を覚えた。あの業でさえも顔が引きつらせる。そのあとに鳥間先生も入ってきた。

「今日転校してきた人達です。では、自己紹介をお願いします」

生徒達は誰が先に言うのか気になった。そしてはじめに出たのが「じゃあ、まずは私が行こうかしら？」

京水だった…京水は身体をくねらせて前が出る。すると、クラスは異様な雰囲気になった。無論殺せんせーも顔が歪む。

『……私?』

「私は京水よ! 今日からよろしくね!!?」

早速始まった泉ワールド、京水の性格に殺せんせーとクラスの皆は……

『早速ヤベエやつ来た!??』

当然だがドン引きする。こんなにキャラの濃いオネエは見た事が無いのだろう。次に1番ガタイが良く、頭にバンダナを巻いた大男が前に出た。

「うるさいっての京水!!? 普通に出来ねえのかよ! 俺は堂本剛三だ、まあそうだなあ…とりあえずよろしくな!」

おおぎつぱだがそこが堂本剛三のいいところでもあるだろう。次はこのメンバーでの唯一の女子が前に出て口を開く。

「私は羽原レイカ、普通によろしくね」

羽原レイカの姿を見る一部の男子はそのスタイルの良さに鼻の下を伸ばしていた。茅野に関しては自分の胸と見比べてシヨツクを受けていたが…そして次は無口で仕事人の様な雰囲気の良い男。

「……芦原賢」

それだけしか言わなかった。クラスの皆は龍之介を見てから芦原

賢を見て・・・

『(この2人なんか似てるなあ)』

そう思った。そして最後に、誰が見てもモデルみたいだと言うであろう、青いメツシユを掛けたクールな男。

「大道克己だ。得意な事は・・・歌、だな。そして、俺達はNEVERだ」

NEVER。克己が言ったこの言葉に、それを聞いたクラスの皆は一気にざわついた。それもそのはずだ。あの世間を騒がすNEVERの正体が、まさか自分達とは変わらないぐらいの人だとは思わなかったからだ。

「大道君も言ったように彼等は世間を騒がすNEVERだ。俺でも勝てない程の実力者。彼等もこのクラスで過ごす事になる。勉強になると思うからよく観察しておけ」

鳥間先生が皆にそう言う。すると・・・

「ねーねー、NEVERってどの位強いのか？見せてくれない？」

赤羽はNEVERに向かってそう言った。今の言葉は半分煽り、半分この目で見てみたいという気持ちから来たものだ。5人を代表して克己が前が出る。

「良いだろう。見せろと言われて見せるものではないが、俺達の実力を見せてやる。殺せんせー、付き合ってくれるな？」

「はい、良いですよ。私も君達の実力が気になりますからねえ。ヌルフフフ」

そしてNEVER達は校庭に向う。後をつけて我先にとクラスの皆が付いて行った。